

新規就農者への就農定着に向けた支援

■ 管内就農予定者、認定新規就農者 ■

(西讃農業改良普及センター ○岡田紗和、上原啓介、高橋孝明)

●対象の概要

西讃管内の新規就農者数は、過去5年間45人前後で推移しており、県内の新規就農者数の3～4割を占め、今後の農業を担う若手の農業者の参入が非常に活発な地区となっている。

また、経営開始時の経営部門をみると5年前は新規就農者の9割が露地野菜で経営を開始していたが、最近では果樹での就農者が3割まで増加するなど、経営品目が多様化している。

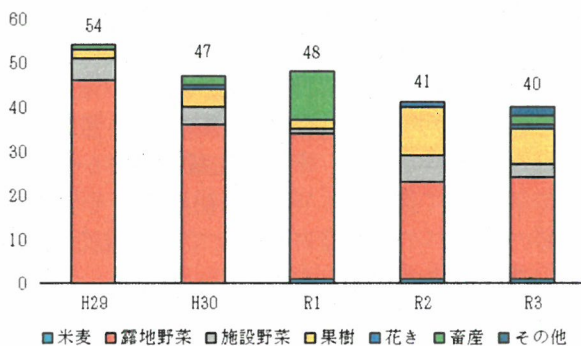


図-1 新規就農者の推移

●課題を取り上げた理由

西讃管内の就農相談延べ回数は過去5年間で約3倍に増加しており、就農相談者数も5年前から2倍に増加している。

しかし、近年の各種資材等の価格高騰による初期投資の増加や農産物価格の低迷による収益減少など農業者への負担が大きく、新規で農業を開始するのは大変困難な状況となっていることから、就農前の入念な計画作成等の支援とともに、就農後の就農定着への支援が必要となっている。

表-1 就農相談数及び相談者数

単位：回、人

| | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 |
|--------|-----|-----|----|----|-----|
| 相談延べ回数 | 49 | 27 | 71 | 83 | 170 |
| 相談者数 | 33 | 22 | 38 | 50 | 69 |

●普及活動の経過

1 就農に向けた支援体制の整備

(1) 関係機関との連携

就農相談では、市の担当と連携し、将来の経営構想を明確にできるよう聞き取りを行うとともに、独立就農までのスケジュールの確認を行った。目標年度である5年後までの経営収支や労働時間を試算し数値やグラフで表すことで、計画の実現可能性について検討した。また、農地や資金の相談については専門の関係機関への誘導や収支計画の作成支援を行った。

(2) 先進農家での研修の推進

研修にあたっては、現場での農作業や経営手法を学ぶことで、独立後の自らの経営に生かせるよう、先進農家での研修を推進した。研修先の選定にあたっては、研修生が希望する品目や就農地等を考慮しながらお試し就農事業による先進農家と研修生とのマッチングを行った。

2 就農後の栽培技術向上支援

(1) サポートチームや農業士、技術担当等と連携した支援

認定新規就農者に対する総合的な支援ができるよう、市町、農業委員会、JA、金融機関、普及センター等の関係機関でサポートチームを作り、現場確認及び面談による指導を年4回実施した。

現場確認では、ほ場の管理や栽培状況の確認、面談では、栽培技術、農地、資金の各部門の状況の聞き取りを行った。また、農業士と新規就農者の収量や販売単価、労働時間をグラフにして比較を行い、収量や秀品率が向上にしない要因等を探り、課題の抽出を行った。

(2) 新規就農者間での勉強会の実施

新規就農者同士の交流を促すため、管内の若手の農業者組織である西讃農業者クラブへの参加誘導を行った。毎月の活動の中で、クラブ員同士のは場訪問やクラブ員から要望のある勉強会を開催し、知識や技術の向上を図った。また、グループLINEにより全員で情報共有を行うほか、連絡先交換による個々でのつながりを作ることで、新

新規就農者同士でのつながりの構築を図った。

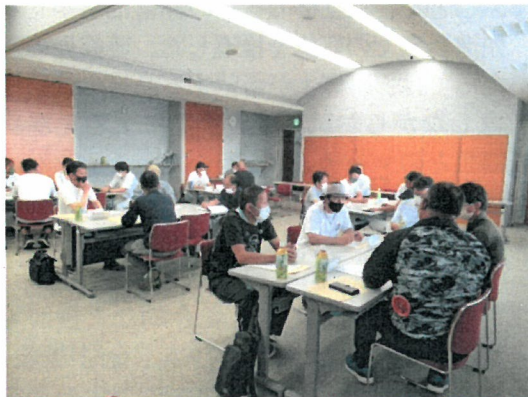


クラブ員のほ場での研修会の様子

3 就農後の経営管理能力向上支援

(1) 農業士との意見交換会の開催

就農後、新規就農者が孤立しないよう、就農予定者や新規就農者と農業士との意見交換会を開催し、身近に相談できる先輩農業者との関係構築を図った。



農業士と新規就農者等との意見交換会

(2) 初心者簿記講習会の開催

経営開始時から自ら経営状況を把握できるよう初心者簿記講習会を開催した。講習会では、複式簿記の仕組みや経営管理の基礎のほか、財務諸表の見方についての理解促進を図った。

●普及活動の成果

1 就農に向けた支援体制の整備

関係機関と役割分担して連携することで、個々の進捗段階に応じた必要な支援や情報の提供を行うことができた。また、先進農家での研修を推進することで、現場での実践的な知識や技術を習得することができたほか、地域でのつながりが構

築できた。新規就農者に対する総括的なサポートの役割を担う人材の確保にもつながった。

2 就農後の早期の栽培技術習得

サポートチームによる支援では、栽培技術、農地、資金の各部門の状況の現状と課題をチーム全体で共有し、課題解決に向けた議論を行う中で改善策を講じることができた。

また、技術担当や農業士と連携した技術指導では、農業士と新規就農者の収量やkg単価、労働時間をグラフにして違いを見える化することで、個々の新規就農者が習得できていない知識や技術について検討し、具体的な改善策を講じるとともに、今後の栽培管方法や来期の作付計画の見直しを行う等、綿密な指導を行うことができた。

西讃農業者クラブの活動では、毎月の活動を通じて、知識や技術の向上とともに、新規就農者間で悩みを相談できる同世代の仲間づくりの場もなった。

3 就農後の経営管理能力の向上

経営管理の基礎となる複式簿記知識の習得とともに、1年間の成績書である決算書の見方についても理解が深まり、経営改善に対する意識啓発を行うことができた。また、先輩農業者から就農前や就農して間もない時期の初期投資や資金管理等のアドバイスを受けることで、新規就農者自身の課題解決の一助となった。

●今後の普及活動の課題

1 新規就農者の経営状況の把握

就農開始から経営が安定するまでの一貫した支援が必要であるが、管内の新規就農者の経営状況等を十分把握できていないため、今後は各々毎年の経営状況や栽培歴、前回の課題と講じた改善策を記録するなど、継続的な支援のための仕組みづくりが必要である。

2 経営改善に向けた支援内容の検討

安定した経営を継続するためには、日々の経営状況の把握とともに、経営品目、規模、雇用等の見直しも必要になる。事業面では、PDCAサイクルでの継続的な改善を行い、資金面ではキャッシュフロー計算書を活用した今後の投資計画作成や資金繰りの改善等の支援が必要である。

今後も新規就農者の就農定着及び早期の経営安定に向けて長期的かつ多岐にわたる支援が必要であることから、関係機関と連携した支援を強化していきたい。